

# 第54回 景気動向アンケート報告

(2019年5月～8月期)

## <消費増税 2割の企業が売上減を懸念>

<今期で21期連続の2012年9-12期以来のプラス領域でのDI値推移に、消費増税がどのような影響を与えるか、今後の1年に注目！>

DI値のプラス領域での推移は、今期+15で2012年9-12期以来21期連続。来期予測も+19と、プラス領域での推移となる見通し。今期+15は、前期比では▲6ポイントだが、前年同期比+10ポイントで、消費増税前の駆け込み需要の影響も見られる。来期予測+19は、今期比+4ポイントを予測するも、前年同期比では▲6ポイントとなり、後述する消費増税後の売上減に対する2割の企業の懸念が反映したものと見られる。

以下、消費増税とも絡ませながら、若干、景気動向の分析・解釈を試みたい。

1. 過去5年間（2015-2019）の全体業況判断DIの推移は、次表の通り。

年	1-4月	5-8月	9-12月	年3期平均値
2015	+12(▲12)	+5(▲4)	+24(+18)	+13.7(+0.7)
2016	+11(▲1)	+12(+7)	+15(▲9)	+12.7(▲1.0)
2017	+24(+13)	+12(±0)	+30(+15)	+22.0(+10.0)
2018	+12(▲12)	前年同期+5(▲7)	+25(▲5)	+14.3(▲7.7)
2019	前期+21(+9)	今期+15(+10)	来期予測+19(▲6)	-

※ ( ) の数字は、前年同期比の増減

2. 上表の5年間の推移を、2つの視点から分析する。

1) 過去5年（2015-2019）の「同期（5-8月期）」のDI推移に絞った比較

年	5-8月
2015	+5
2016	+12
2017	+12
2018	+5
2019	今期+15

緑色の今期(2019年5-8月期)の全体業況DIは、+15で、表の過去5年(2015-2019)の同期(5-8月期)DIを比較検討すると、次の通りとなる。

- ①水色の前年同期との比較で「+10ポイント(改善)」
- ②過去3年(2017-2019)で「最高値」
- ③過去5年(2015-2019)でも「最高値」

2) 過去5年（2015-2019）の「同期（5-8月期）」とその前期（1-4月期）」のDI比較

年	1-4月	5-8月
2015	+12	+5(▲7)
2016	+11	+12(+1)
2017	+24	+12(▲12)
2018	+12	+5(▲7)
2019	+21	+15(▲6)

過去5年(2015-2019)の同期(5-8月期)と前期(1-4月期)のDIを比較検討すると、次の通りとなる。

- ①緑色の今期は、水色の前期比「▲6ポイント(悪化)」だが、
- ②過去3年(2017-2019)で「悪化幅が最小」
- ③過去5年(2015-2019)では「悪化幅が2番目に小さい」(2016年のみ例外的に+1ポイント)

※ ( ) 内は、前期比増減

3. 「9-12月期が始期」の年間3期のDI値の推移の「経験則」による分析・解釈を試みる。

＜経験則による分析視点＞  
 経験的にみると、9-12月期を始期とする年間3期のDI値の推移は、対象期間に年末を含み、年始の調査となる9-12月期が、一般的に消費活発期、公的発注期等という季節要因とも重なり、高（好）数値となり、1-4月期、5-8月期へと逡減して行く傾向にある。

年	9-12月	年	1-4月	5-8月
2013	+26	2014	+24 (▲2)	+9 (▲15)
2014	+6	2015	+12(+6)	+5 (▲7)
2015	+24	2016	+11 (▲13)	+12(+7)
2016	+15	2017	+24(+9)	+12(▲12)
2017	+30	2018	+12(▲18)	+5(▲7)
2018	+25	2019	+21(▲4)	+15(▲6)
2019	予測+19	2020	-	-

※逡減：徐々に減少すること

※（ ）内は、前期比増減

- ①上表水色、および緑色の最近2年間は、上記経験則に合致している。  
 ②さらに、緑色の流れは、水色の流れに比べ、緩やかな逡減となっている。  
 ③これに対し、上表の2014-2017の3年間強は、経験則に合致せず、「乱れ」ている。

4. まとめ（「前回消費増税後についての仮説」と今回消費増税の景気への影響について）

1) 3年から5年の中長期的影響について

①前回消費増税（税率5%→8%）は、2014年4月1日（上表ピンク色部分に含まれる）からスタートしている。

②前回消費増税の景気動向への影響について、次のような「仮説」を提示したい。

上記3.の表を見ると、前回消費増税（2014年4月から）後、景気動向には約3年強（2014-2017頃）の「乱れ」が生じたが、何とかしのぎきり、最近の約2年間（2018-2019頃）の景気は上記「経験則に合致し安定的で」（上記3.の分析参照）、「上向き」（上記2.の分析参照）なものとなっていた。

③今回消費増税（税率8%→10%）の景気動向への影響が、上記②の「仮説」と同様の、または類似のものとなるか、そうでないか、来期以降の注目ポイントとなる。

※景気動向は、税制だけでなく、諸要因の影響を受けるものと思われるが、消費増税に焦点をあてた上記仮説については、今後の景気動向を占う（推理する）一つの試みとしてご理解頂きたい。

2) 1年～2年程度の短期的影響について

①上記3.の表を見ると、前回消費増税がスタートした2014年1-4月期は、駆け込み需要期も含まれ、前期比悪化幅が▲2と僅少。その後、2014年5-8月期から2015年5-8月期までの増税後1年半前後は、低空飛行状態と解釈できる。

②今回消費増税は10月1日スタートしたが、来期（2019年9-12月期）は、「駆け込み需要期（9月）+本来の年末需要期-消費増税（10/1～）の影響+ポイント還元等の影響緩和策」という複雑な要因が絡み合う。

③後述の調査項目中消費増税の自社への影響で、売上減を懸念する企業が2割に上ることから、前回増税後同様の1～2年程度の景気押下げ懸念を抱かざるを得ない。

「来期DI予測+19」は、前年同期比▲6で、懸念を反映したと見られる。

## 概 要

### ○経営上の問題点

別添資料の通り。TOP 3 は、断トツ 1 位「従業員の不足」、2 位は「人件費増加」、「受注競争の激化」が同数。僅差の 4 位「価格競争の激化」、「仕入価格の上昇」、「売上の減少」も同数。

### ○経営上の力点

別添資料の通り。TOP 1～4 は、前回、前々回と全く変わらず、順に「付加価値の増大」、「新規受注（顧客）の確保」、「人材確保」、「社員教育」の順。

### ○消費税制改正について（税率UPへの対策・準備、**自社への影響**）について

※税率アップ前にアンケートを実施しています。

別添資料の通り。自社への影響については、「影響なし」が回答 109 社中 83 社（76.1%）の高率をしめるが、「**売上アップ**」4 社（3.7%）に対し、「**売上ダウン**」22 社（20.2%）。

これを DI 値化すれば、 $(4-22) \div 109 \times 100 = \blacktriangle 17$ 。2 割の企業の売上ダウン予測は、景気動向を占う（推理する）上で、軽視してはならない要注意指標であると言える。

### ○キャッシュレス決済（普及期間、法人カード等の利用状況）について

別添資料の通り。普及期間について「3～4 年」42 社（39%）「5～9 年」32 社（29%）「10 年以上」13 社（12%）「ならない」13 社（12%）「1～2 年」9 社（8%）の順。急速な普及とまではいかないという認識が大勢とみるべきであろう。

1. 対象企業 鹿児島県中小企業家同友会会員企業（109社）
2. 対象期間 2019年5月～8月期実績、2019年9月～12月見通し
3. 調査方法 FAX送付
4. 回答企業数 109社より回答を得た（回答率 23.3%）

## 景気動向調査アンケート(第54回)

目標150社回答!!  
ご協力をお願いします

(今期は2019年5月～8月です)

締め切り 9月16日(月)

☆ この調査は全会員の皆様に送っております。結果は全会員に公開いたします。

☆ 尚、個々の調査データ内容は一切公表せず、集計担当者と事務局で保管いたします。(政策委員会)

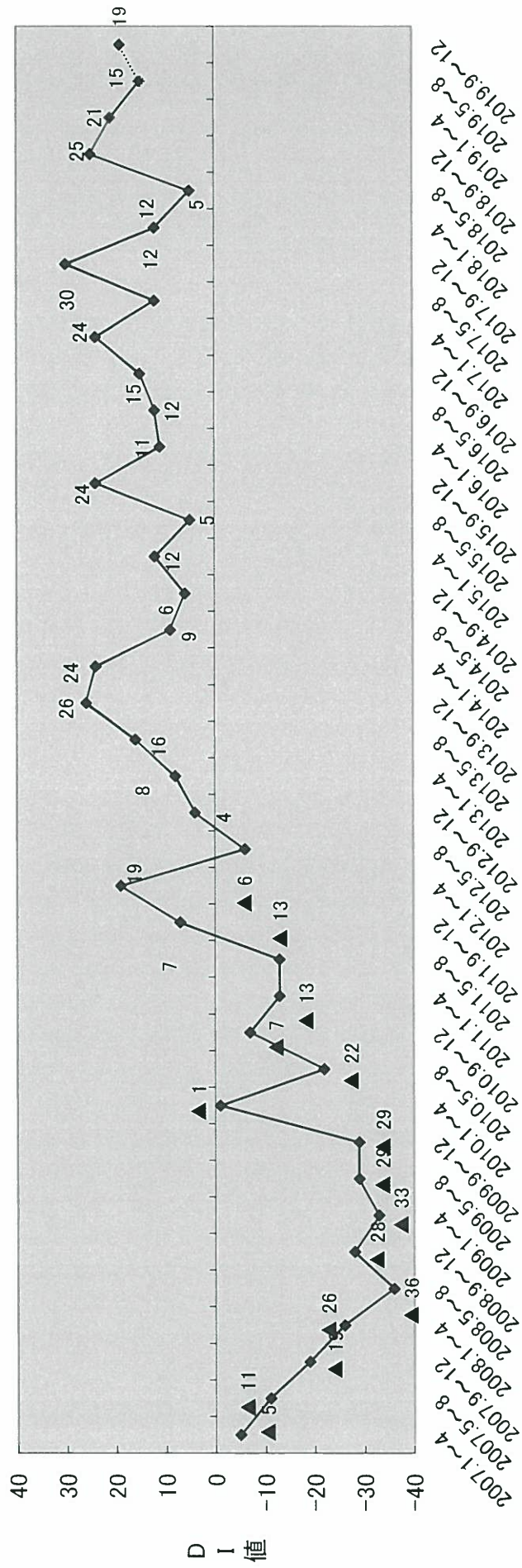
☆ このアンケートは、e.doyuでも実施しています。そちらでご回答いただいた場合はこのFAXでのご回答は必要ございません。

氏名			企業名			
(1) あなたの会社の状況についてお答えください。 (該当するものに○印をつけてください)			業種	1、製造業 2、建設業 3、卸売業 4、小売業 5、サービス業(a:対事業所向け b:対個人向け) 6、農水産業 事業内容( )		
			(今期) 2019年5月～8月の実績	(来期) 2019年9～12月の見通し		
1、業況	良い	変わらず	悪い	良い	変わらず	悪い
今期の業況について、前期(2019年1月～4月)と比較してお聞かせ下さい。 ①好転 ②横ばい ③悪化						
2、売上	良い	変わらず	悪い	良い	変わらず	悪い
3、収益	良い	変わらず	悪い	良い	変わらず	悪い
4、資金繰り	良い	変わらず	悪い	良い	変わらず	悪い
(2) 経営上の問題点(上位2つまで選び、番号に○をつけてください) 1、価格競争の激化 2、受注競争の激化 3、売上の減少 4、事業資金の借入難 5、仕入価格の上昇 6、人件費の増加 7、管理費等間接費の増加 8、金利負担の増加 9、従業員の不足 10、税負担の増加 11、その他( )						
(3) 経営上の力点はどこに置かれていますか(下記の上位2つまで選び番号に○をつけてください) 1、付加価値の増大 2、新規受注(顧客)の確保 3、新規事業の展開 4、得意分野の絞込み 5、人件費削減 6、人件費以外の経費節減 7、財務体質の強化 8、機械化促進 9、情報力強化 10、人材確保 11、社員教育 12、研究開発 13、機構改革 14、その他( )						
(4) 消費税制改正についてお伺いします。 ①税率UPへの対策・準備はできていますか。(できているものをチェックしてください。複数回答可) 1、価格転嫁 2、レジ(軽減税率) 3、経理処理(仕入先、取引先毎の税率対応) 4、その他(自由記入) ) ②自社売上への影響 1、アップ 2、ダウン 3、影響なし						
(5) キャッシュレス決済についてお伺いします。 ①現金決済がほとんど使用されない「キャッシュレス社会」はどれくらいの期間で訪れると思いますか。 1、1～2年 2、3～4年 3、5～9年 4、10年以上 5、ならない ②御社では法人カード、電子マネー等を利用していますか。利用している場合どのように利用していますか。 1、利用している(どのように: ) 2、利用していない						

ご協力ありがとうございました。

返信はFAXで同友会事務局(FAX⇒099-259-4838)までお願いします。

# 全体の業況

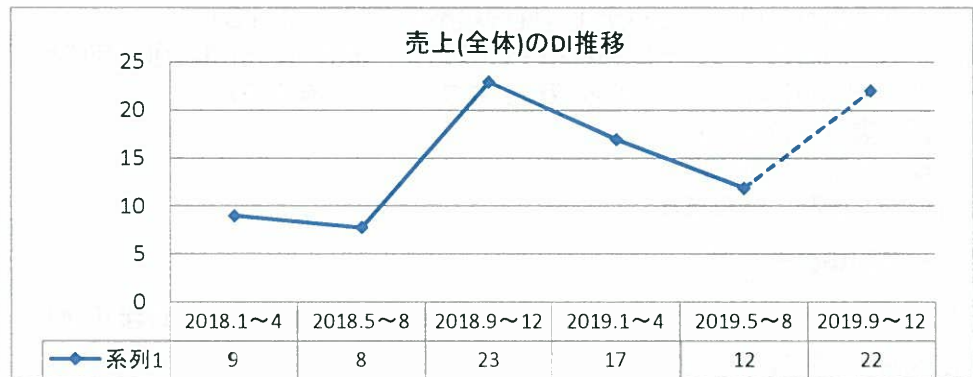


# 全体

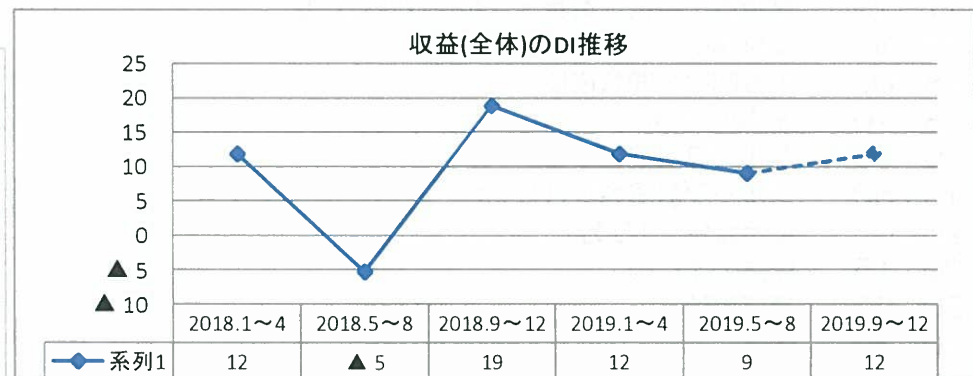
今期の業況は「良い」32.1%、「変わらず」50.5%、「悪い」17.4%でD.I.14.7となっており、前期並みでした。  
来期の業況はD.I.19.3と今期並みの見通しです。



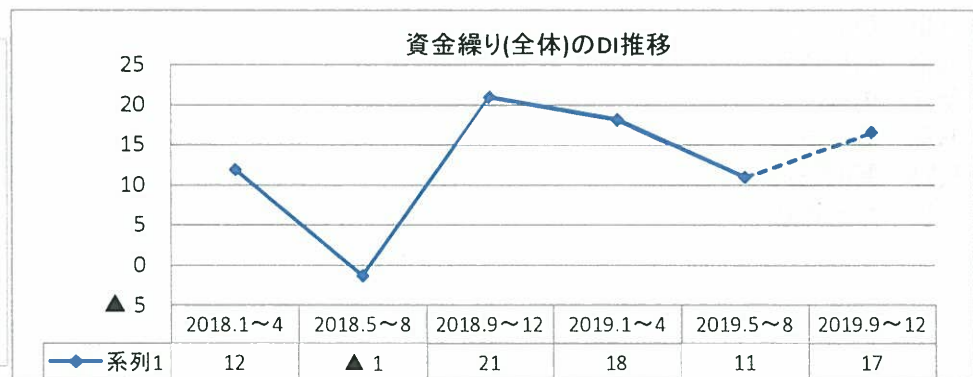
今期の売上は「良い」30.3%、「変わらず」51.4%、「悪い」18.3%でD.I.11.9となっており、前期並みでした。  
来期の売上はD.I.22.0と今期並みの見通しです。



今期の収益は「良い」28.4%、「変わらず」52.3%、「悪い」19.3%でD.I.9.2となっており、前期並みでした。  
来期の収益はD.I.11.9と今期並みの見通しです。



今期の資金繰りは「良い」23.9%、「変わらず」63.3%、「悪い」12.8%でD.I.11.0となっており、前期並みでした。  
来期の資金繰りはD.I.16.5と今期並みの見通しです。



# 建設業

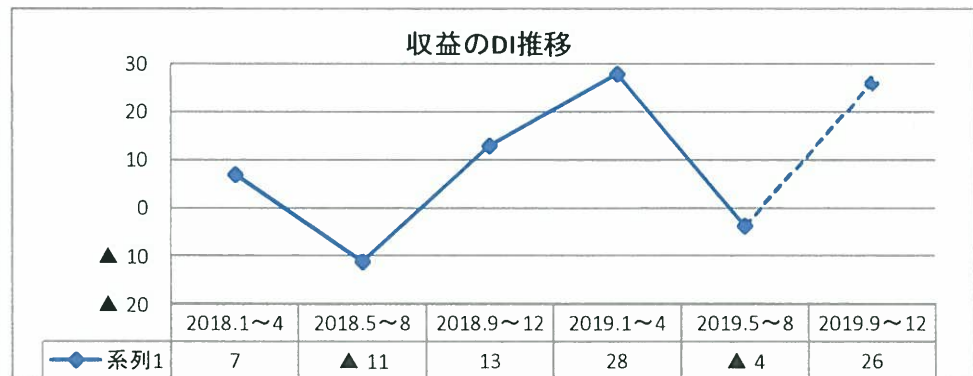
今期の業況は「良い」29.6%、「変わらず」44.4%、「悪い」26.0%でD.I.3.7となっており、前期に比べ非常に大きく下降しました。  
来期の業況はD.I.44.4と今期に比べ非常に大きく上昇する見通しです。



今期の売上は「良い」26.0%、「変わらず」48.0%、「悪い」26.0%でD.I.1.0となっており、前期に比べ大きく下降しました。  
来期の売上はD.I.44.4と今期に比べ非常に大きく上昇する見通しです。



今期の収益は「良い」26.0%、「変わらず」44.4%、「悪い」29.6%でD.I.▲3.7となっており、前期に比べ非常に大きく下降しました。  
来期の収益はD.I.25.9と今期と比べ非常に大きく上昇する見通しです。

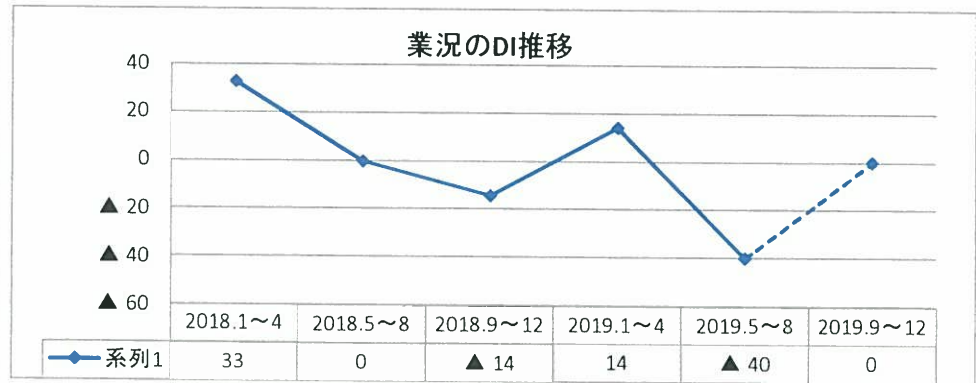


今期の資金繰りは「良い」29.6%、「変わらず」63.0%、「悪い」7.4%でD.I.22.2となっており、前期並みでした。  
来期の資金繰りはD.I.22.2と今期並みの見通しです。



# 卸売業

今期の業況は「良い」20.0%、「変わらず」20.0%、「悪い」60.0%でD.I.▲40.0となっており、前期に比べ非常に大きく下降しました。  
来期の業況はD.I.0と今期に比べ非常に大きく上昇の見通しです。



今期の売上は「良い」20.0%、「変わらず」20.0%、「悪い」60.0%でD.I.▲40.0となっており、前期に比べ非常に大きく下降しました。  
来期の売上はD.I.▲20.0と今期に比べ上昇の見通しです。



今期の収益は「良い」20.0%、「変わらず」40.0%、「悪い」40.0%でD.I.▲20.0となっており、前期に比べ下降しました。  
来期の収益はD.I.▲20.0と今期並みの見通しです。



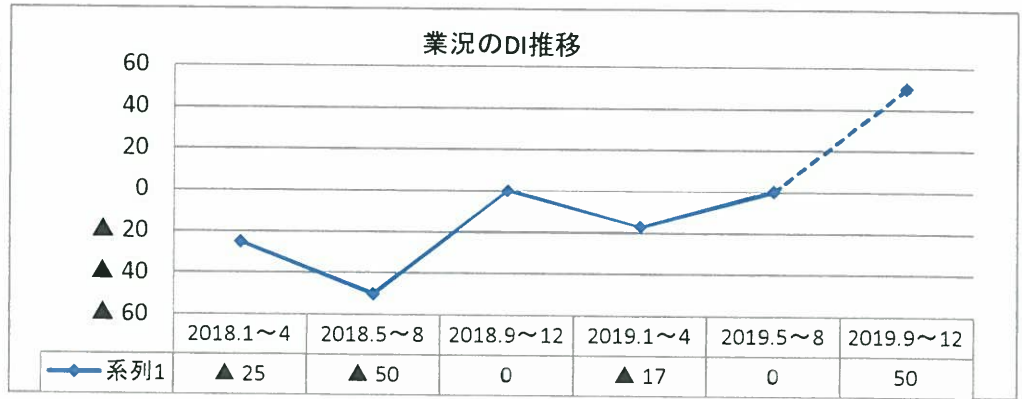
今期の資金繰りは「良い」20.0%、「変わらず」80.0%、「悪い」0%でD.I.20.0となっており、前期並みでした。  
来期の資金繰りはD.I.0と今期に比べ下降の見通しです。



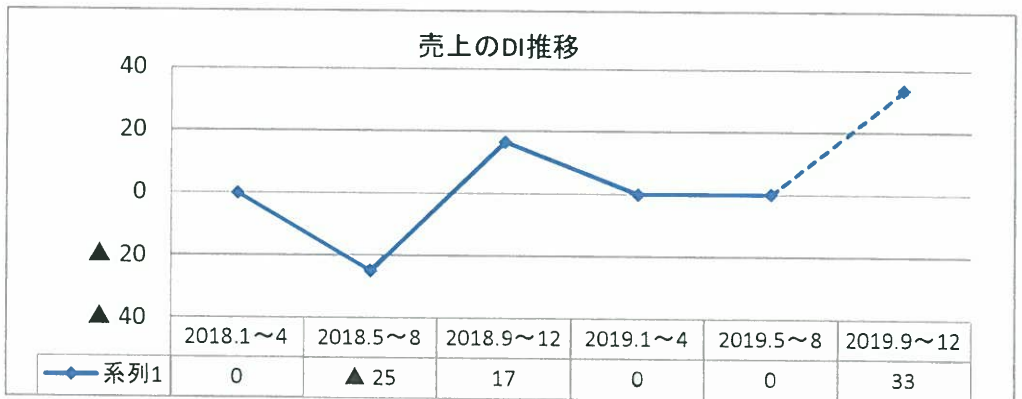


# 小売業

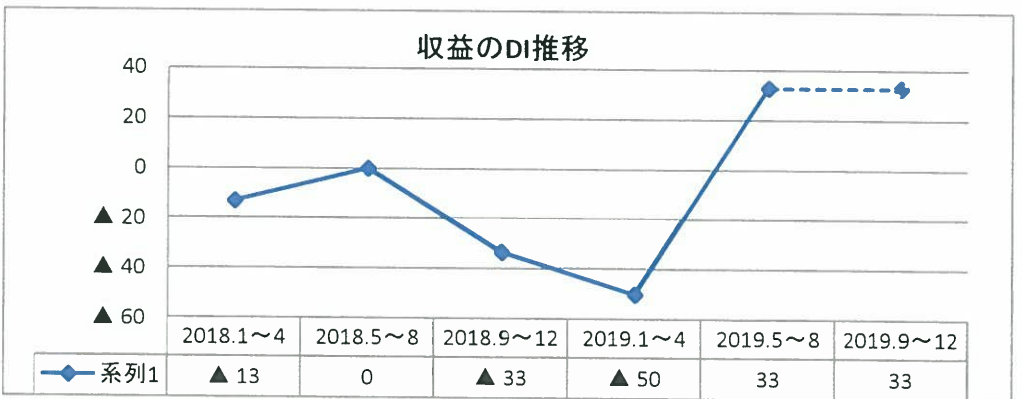
今期の業況は「良い」16.7%、「変わらず」66.6%、「悪い」16.7%でD.I.0となっており、前期に比べ上昇しました。来期の業況はD.I.50.0と今期に比べ非常に大きく上昇する見通しです。



今期の売上は「良い」16.7%、「変わらず」66.6%、「悪い」16.7%でD.I.0となっており、前期並みでした。来期の売上はD.I.33.3と今期に比べ非常に大きく上昇する見通しです。



今期の収益は「良い」33.4%、「変わらず」66.6%、「悪い」0%でD.I.33.0となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。来期の収益はD.I.33.0と今期並みの見通しです。

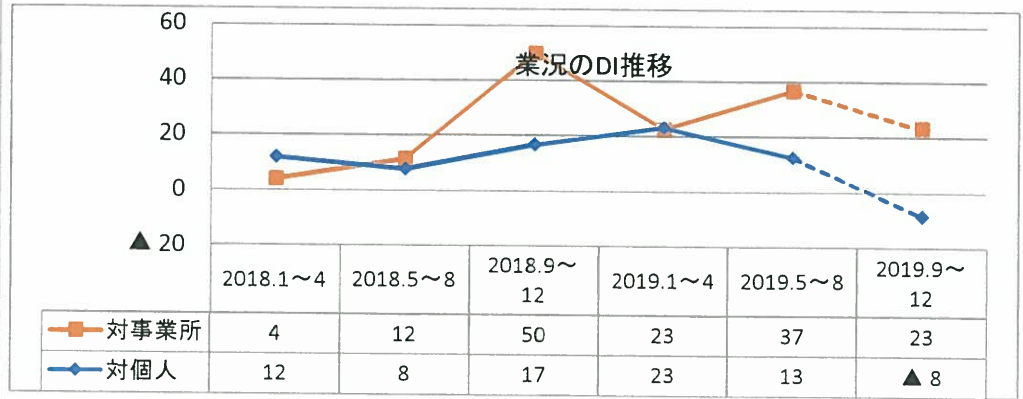


今期の資金繰りは「良い」50.0%、「変わらず」50.0%、「悪い」0%でD.I.50.0となっており、前期に比べ非常に大きく上昇しました。来期の資金繰りはD.I.50.0と今期並みの見通しです。

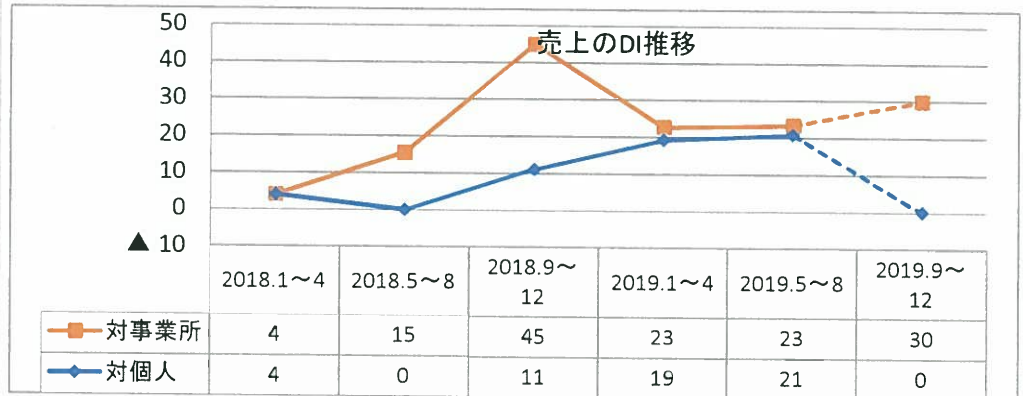


# サービス業

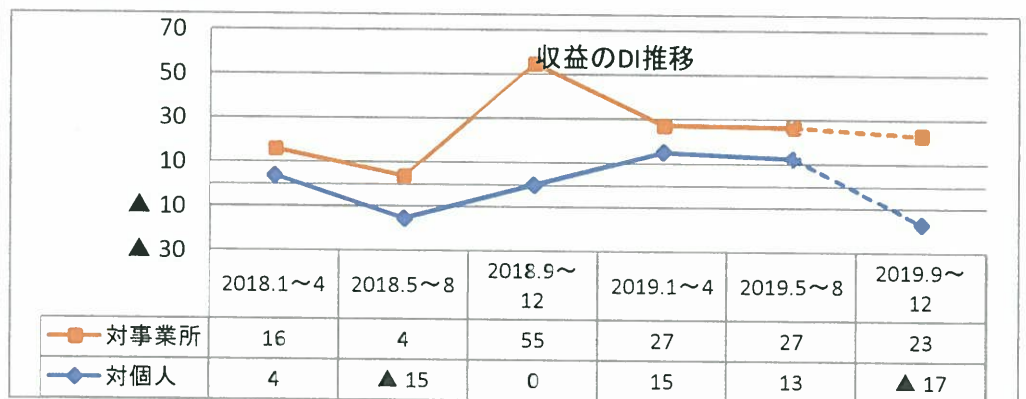
今期の対事業所向けの業況は「良い」46.7%、「変わらず」43.3%、「悪い」10.0%でD.I.36.7となっており、前期に比べ上昇しました。来期の業況はD.I.23.3と下降する見通しです。  
 今期の対個人向けの業況は「良い」25.0%、「変わらず」62.5%、「悪い」12.5%でD.I.12.5となっており、前期並みでした。来期の業況はD.I.▲8.3と今期に比べ大きく下降する見通しです。



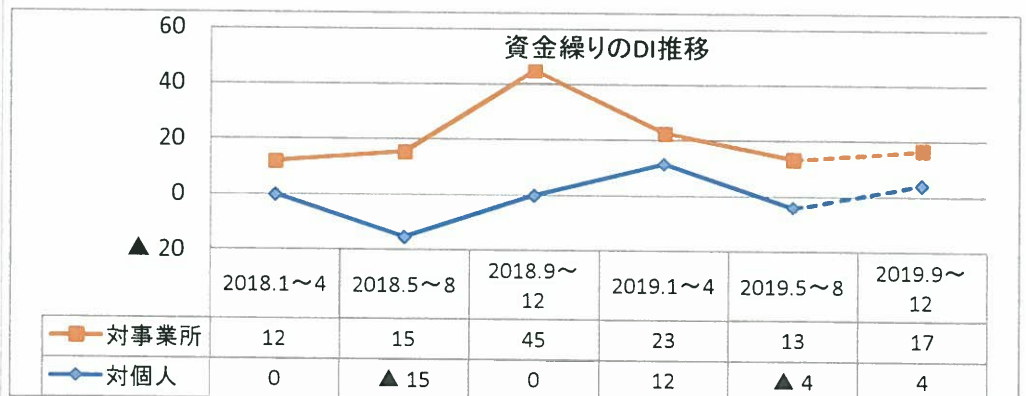
今期の対事業所向けの売上は「良い」36.7%、「変わらず」50.0%、「悪い」13.3%でD.I.23.3となっており、前期並みでした。来期の売上はD.I.30.0と今期並みの見通しです。  
 今期の対個人向けの売上は「良い」33.3%、「変わらず」54.2%、「悪い」12.5%でD.I.20.8となっており、前期並みでした。来期の売上はD.I.0と今期に比べ大きく下降見通しです。



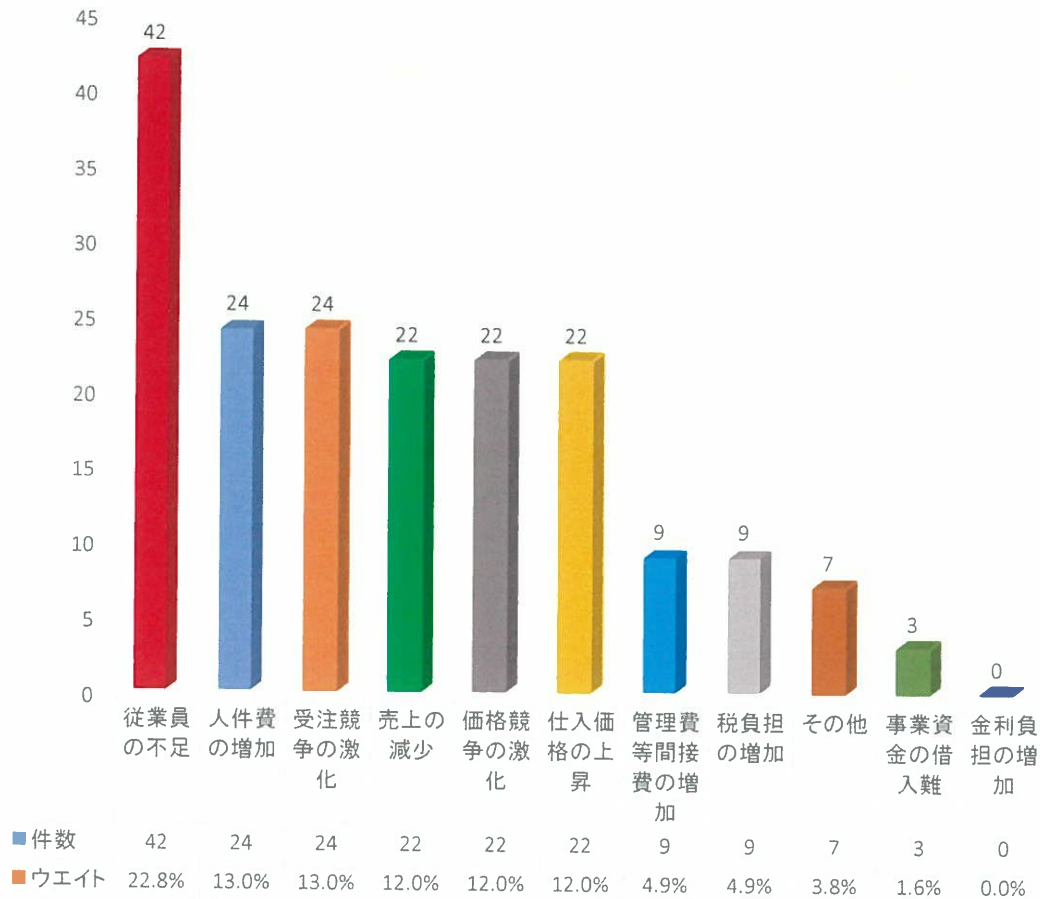
今期の対事業所向けの収益は「良い」36.7%、「変わらず」53.3%、「悪い」10.0%でD.I.26.7となっており、前期並みでした。来期の収益はD.I.23.3と今期並みの見通しです。  
 今期の対個人向けの収益は「良い」29.2%、「変わらず」54.2%、「悪い」16.6%でD.I.12.5となっており、前期並みでした。来期はD.I.▲16.7と大きく下降する見通しです。



今期の対事業所向けの資金繰りは「良い」26.7%、「変わらず」60.0%、「悪い」13.3%でD.I.13.3となっており、前期並みでした。来期の資金繰りはD.I.16.7と今期並みの見通しです。  
 今期の対個人向けの資金繰りは「良い」12.5%、「変わらず」70.9%、「悪い」16.6%でD.I.▲4.2となっており、前期に比べ下降しました。来期はD.I.4.2と今期並みの見通しです。



## 経営上の問題点

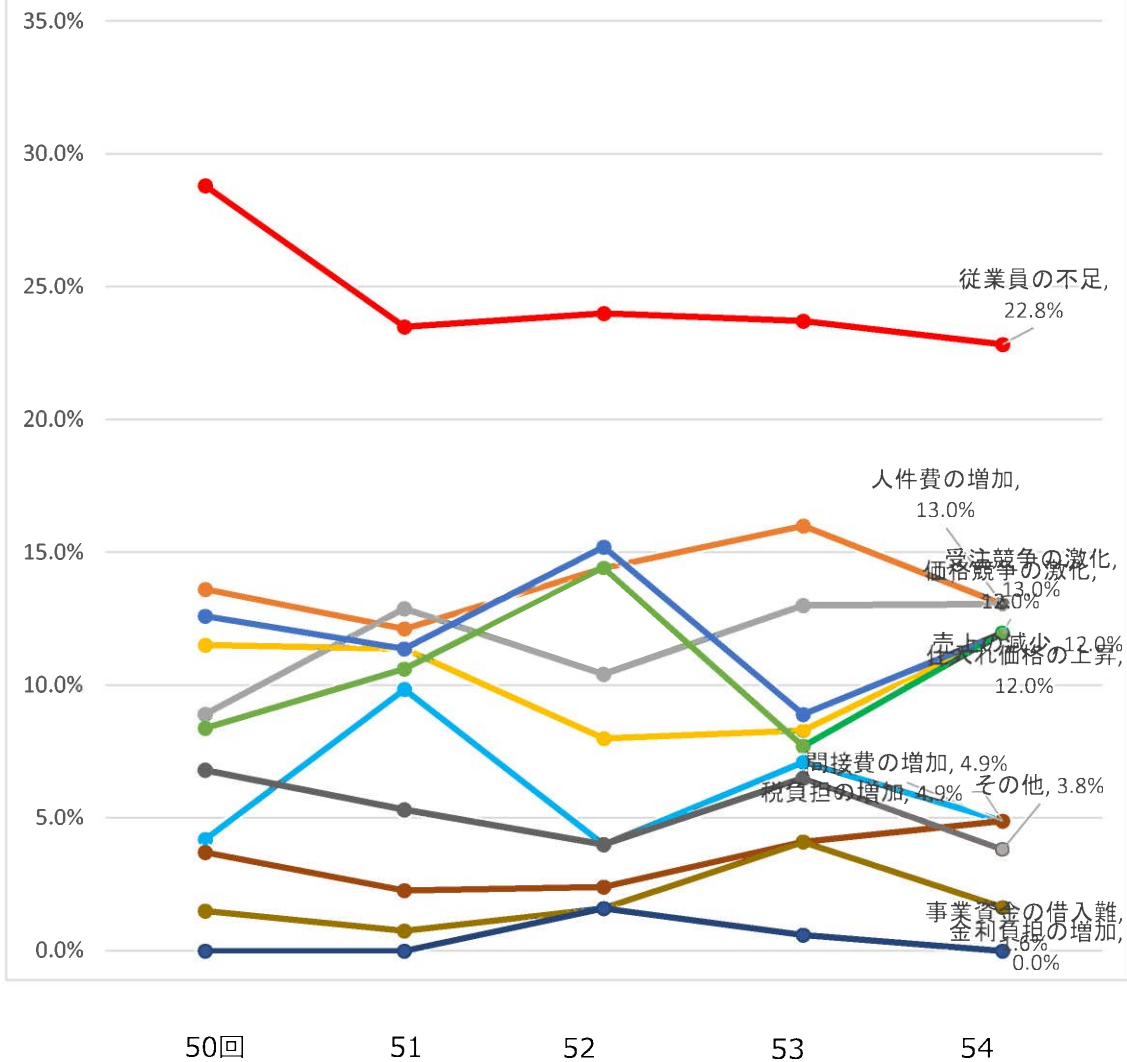


	件数	ウエイト
従業員の不足	42	22.8%
人件費の増加	24	13.0%
受注競争の激化	24	13.0%
売上の減少	22	12.0%
価格競争の激化	22	12.0%
仕入価格の上昇	22	12.0%
管理費等間接費の増加	9	4.9%
税負担の増加	9	4.9%
その他	7	3.8%
事業資金の借入難	3	1.6%
金利負担の増加	0	0.0%

その他 184 100.0%

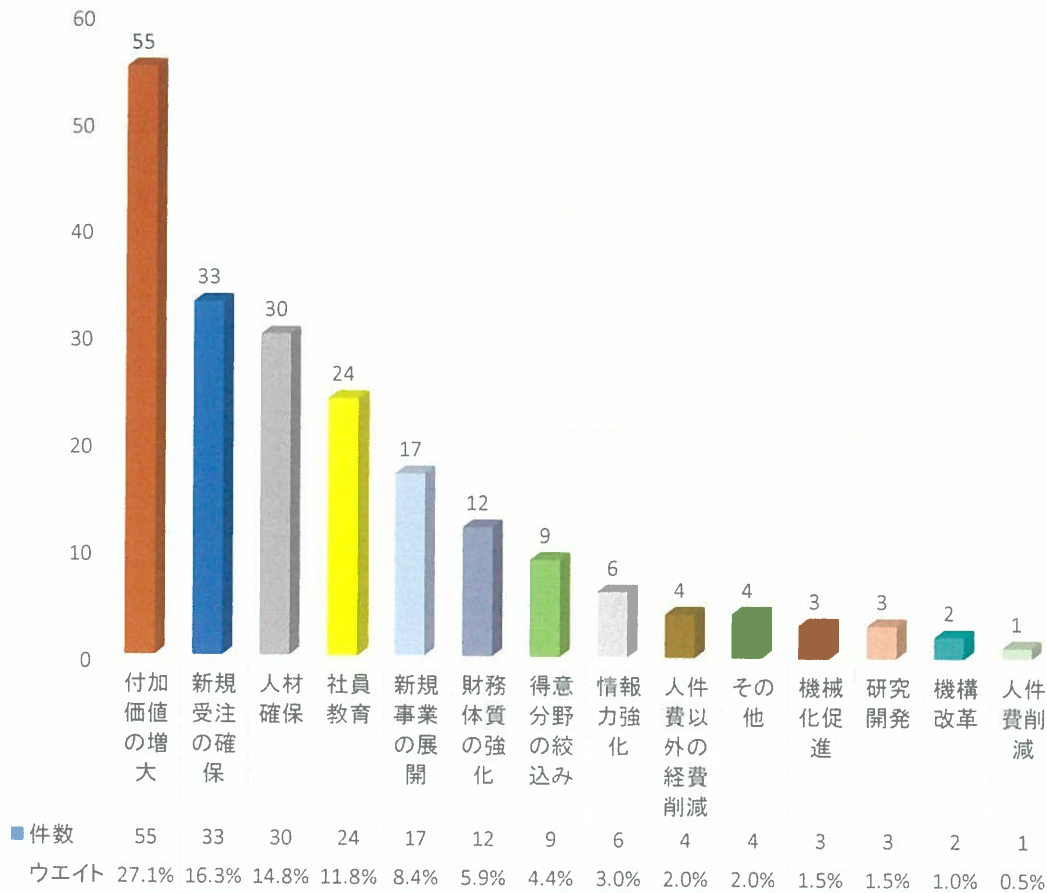
業務の効率化  
高齡化  
新サービス開発の遅延  
国の加算対象の変化

## 経営上の問題点推移（景気動向調査第50回～54回）



	50回	51回	52回	53回	54回
従業員の不足	28.8%	23.5%	24.0%	23.7%	22.8%
人件費の増加	13.6%	12.1%	14.4%	16.0%	13.0%
受注競争の激化	8.9%	12.9%	10.4%	13.0%	13.0%
売上の減少	11.5%	11.4%	8.0%	8.3%	12.0%
価格競争の激化	12.6%	11.4%	15.2%	8.9%	12.0%
仕入れ価格の上昇	8.4%	10.6%	14.4%	7.7%	12.0%
間接費の増加	4.2%	9.8%	4.0%	7.1%	4.9%
税負担の増加	3.7%	2.3%	2.4%	4.1%	4.9%
その他	6.8%	5.3%	4.0%	6.5%	3.8%
事業資金の借入難	1.5%	0.8%	1.6%	4.1%	1.6%
金利負担の増加	0.0%	0.0%	1.6%	0.6%	0.0%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## 経営上の力点

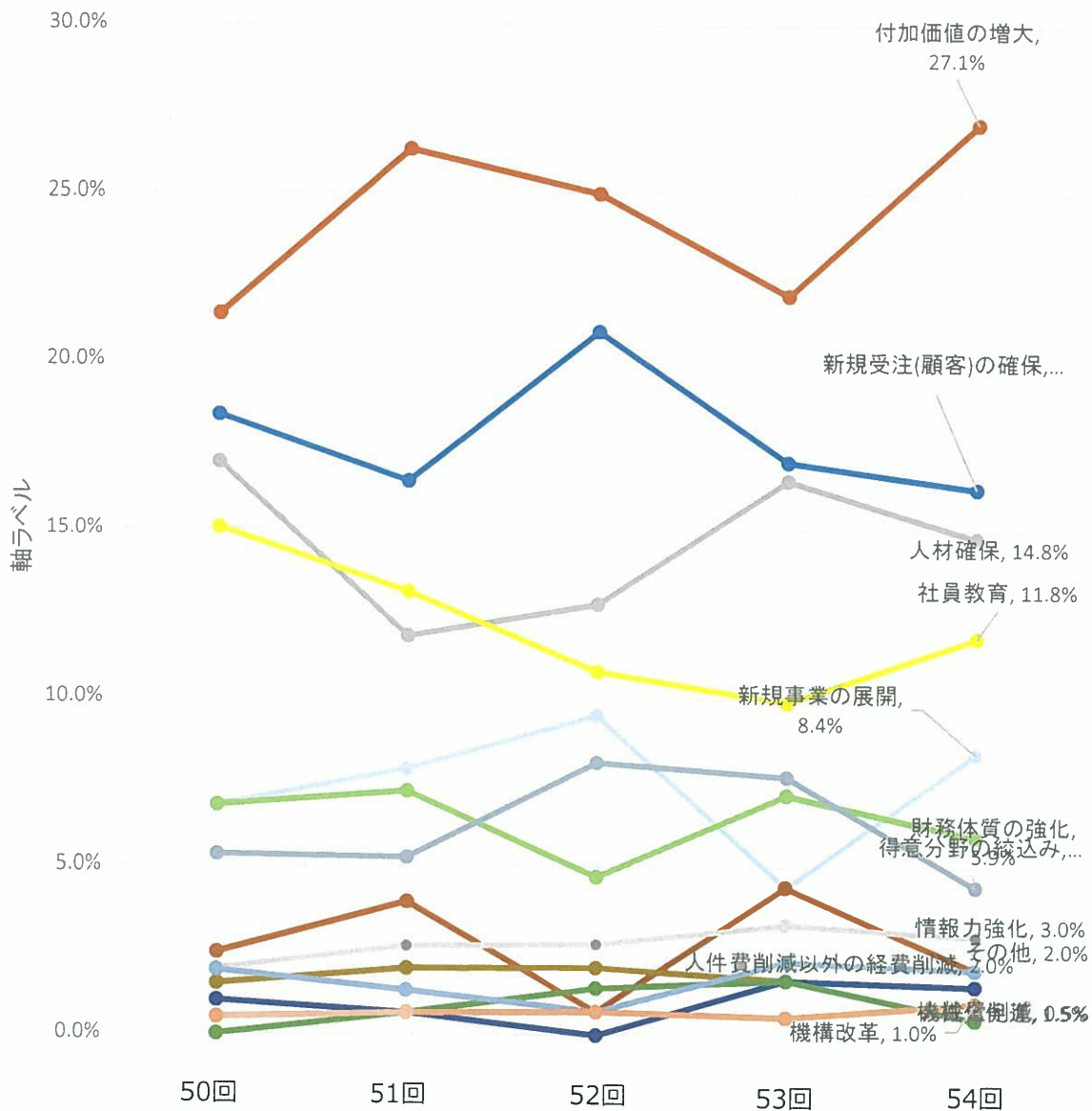


	件数	ウエイト
付加価値の増大	55	27.1%
新規受注の確保	33	16.3%
人材確保	30	14.8%
社員教育	24	11.8%
新規事業の展開	17	8.4%
財務体質の強化	12	5.9%
得意分野の絞込み	9	4.4%
情報力強化	6	3.0%
人件費以外の経費削減	4	2.0%
その他	4	2.0%
機械化促進	3	1.5%
研究開発	3	1.5%
機構改革	2	1.0%
人件費削減	1	0.5%

その他 203 100.0%

IT活用の強化  
業務の効率化  
公共工事の減少  
サービスの向上

## 経営上の力点推移（景気動向調査50回～54回）

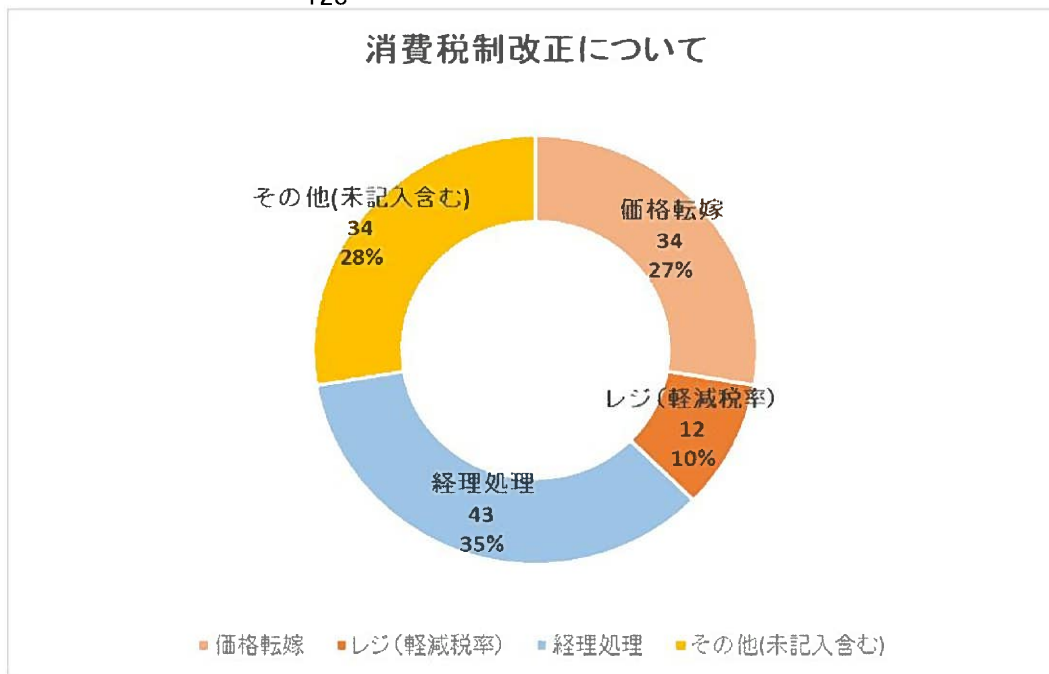


カテゴリー	50回	51回	52回	53回	54回
新規受注(顧客)の確保	18.4%	16.4%	20.9%	17.0%	16.3%
付加価値の増大	21.4%	26.3%	25.0%	22.0%	27.1%
人材確保	17.0%	11.8%	12.8%	16.5%	14.8%
社員教育	15.0%	13.2%	10.8%	9.9%	11.8%
新規事業の展開	6.8%	7.9%	9.5%	4.4%	8.4%
財務体質の強化	6.8%	7.2%	4.7%	7.1%	5.9%
得意分野の絞込み	5.3%	5.3%	8.1%	7.7%	4.4%
人件費削減以外の経費削減	2.4%	3.9%	0.7%	4.4%	2.0%
情報力強化	1.9%	2.6%	2.7%	3.3%	3.0%
機械化促進	1.5%	2.0%	2.0%	1.6%	1.5%
研究開発	1.0%	0.7%	0.0%	1.6%	1.5%
人件費削減	0.0%	0.7%	1.4%	1.6%	0.5%
その他	1.9%	1.3%	0.7%	2.2%	2.0%
機構改革	0.5%	0.7%	0.7%	0.5%	1.0%
				100.0%	100.0%

①税率UPへの対策・準備はできていますか？

価格転嫁	34	27.6%
レジ(軽減税率)	12	9.8%
経理処理	43	35.0%
その他(未記入含む)	34	27.6%

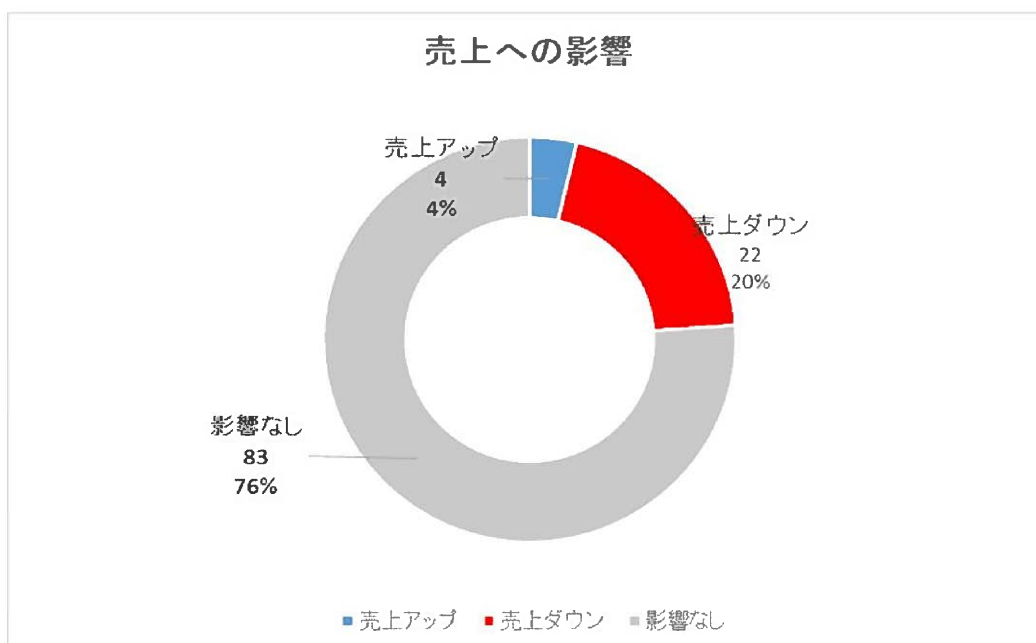
123



②自社売上への影響

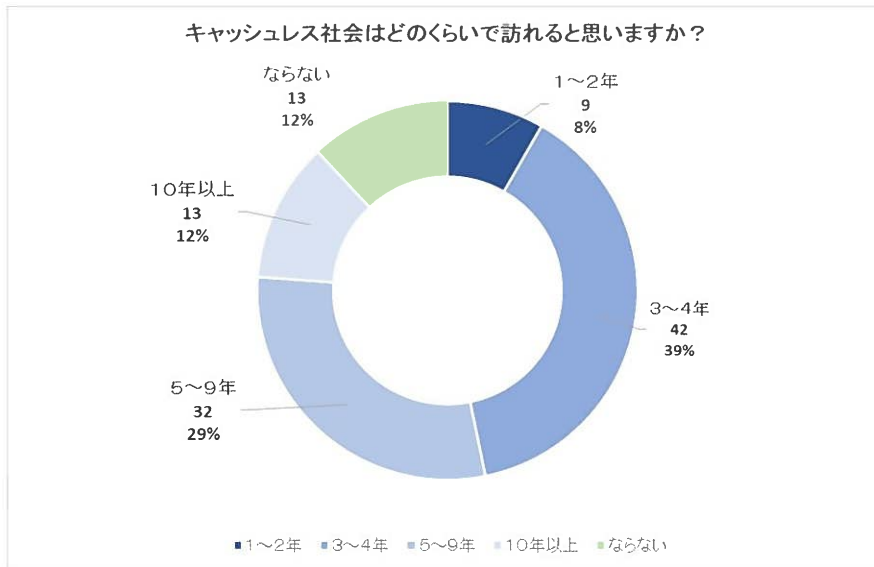
売上アップ	4	3.7%
売上ダウン	22	20.2%
影響なし	83	76.1%

109



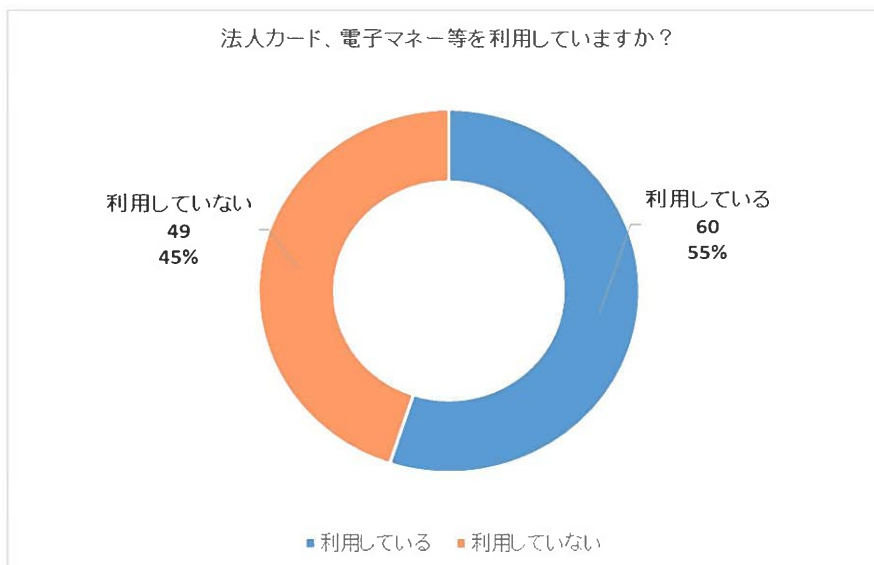
①「キャッシュレス社会」はどのくらいの期間で訪れると思いますか？

1～2年	9
3～4年	42
5～9年	32
10年以上	13
ならない	13



②法人カード、電子マネー等を利用していますか？

利用している	60
利用していない	49



デパートでの客への贈り物代  
 お客様との接待の支払い  
 一部の仕入支払い、一部の経費支払い  
 NETでの決済  
 諸経費の決済  
 法人カードで経費等の支払い  
 法人カードでの通常の支払い等  
 部品調達  
 ETC支払い  
 ガソリン代  
 ゴルフプレー代支払い等  
 経費支払い(自販機取り付け等)  
 リフォーム希望のお客様の支払いに利用可としています  
 カード決済等  
 交通機関  
 paypayのみ導入しました

支払い可能な決済の場合使用  
 旅費交通費・水道光熱費・通信費  
 接待等  
 法人カード  
 経費支払い(ガソリン代など)  
 仕入  
 ETC、ガソリン代、レンタカー等  
 法人カードを使用  
 ネット通販での購入・決済時  
 決済関連  
 スマホアプリで使用  
 国税、出張時の支払い等  
 経費支払い(ガソリン代など)  
 旅費、接待交際費の決済等  
 ネット購入時、役員出張時  
 経費等支払